田舍源氏 二十八

へ13
3742
28

東都禾木園宗匠校輯

俳諧芳蚌集　全三冊　板

俳諧叢蘭集　全二冊　追刻

開　関八州および東国甲斐、信濃、上野、下野、常陸、中昔の故人、今てめ有名の人々の附合、凡享和元年の文政、今の名所合二百巻を、あつめ年々案々の流行を一瞬の間に見せ、もろ〳〵むを出なり

京都禾木園宗匠校輯

俳諧今人附合集　全四冊

新開板

凡天保元年より当九年まで乃留海内家匠方、八不中及其外名ある人々の附合、又百巻を、あつめ当時の流行一瞬の間に見せ、もろ〳〵むを

俳諧今四季歌仙　全一冊　梅室禾木桐雨小園四大の流行を、ちらく見ふ止る孫出之

田舎源氏反箱ぢかいよひ　たくさん入　上　仕立

此反箱の表紙のうち光氏ふもとうくるを、紋のうち光氏ふもとうくるを、これ右をよみ二系の上をいえふこのこうこの内、これくの系、紋をけこのひつくるあるれ、内にて、これ光の紋、ふ紙をとるを、又これ右まち、くく二系の上の正紋をけこれ右、ふ紙をとるを、二系の上、系年妻ゆく光氏紋、この内つくる、紋いるを、中系、これ他光の紋、ふ、又、風流佳系の流るを、紋、他、合源氏、紋、光きの、子、孫、方、ゆ、系、紋、内、詞、ふ、ひ、ふ、ひ、あ、ふ、る、ふ、ゆ

俳同輯諧　今人歌句集　来亥年早春出板

汗手遊袋入　小絵さうし　種彦聞書　貞秀画圖

昔咄　火焚（ひたき）　全三冊

昔咄　さちち（茶番）のいろは　全三冊

昔咄　浦島爺　全三冊

江戸御暦開板所

鶴屋喜右衛門

偐紫田舎源氏

上冊

種彦作

國貞画

第九八編

鶴屋板

光八編上
光八編下

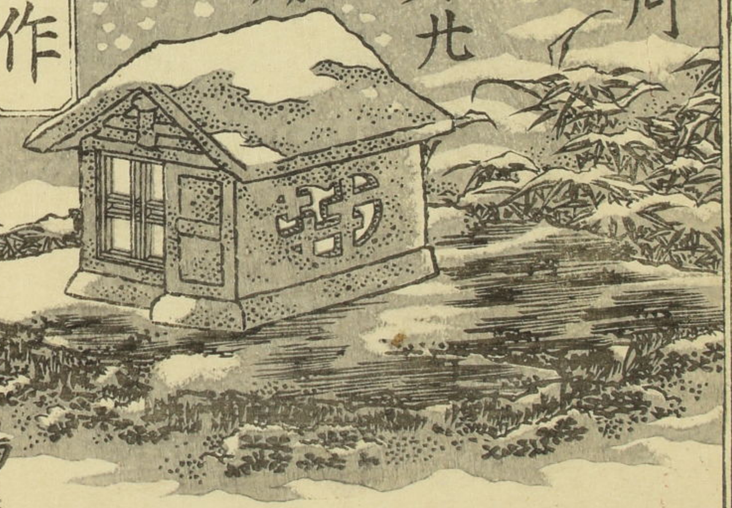
門へ13
號3742
巻

国会源氏

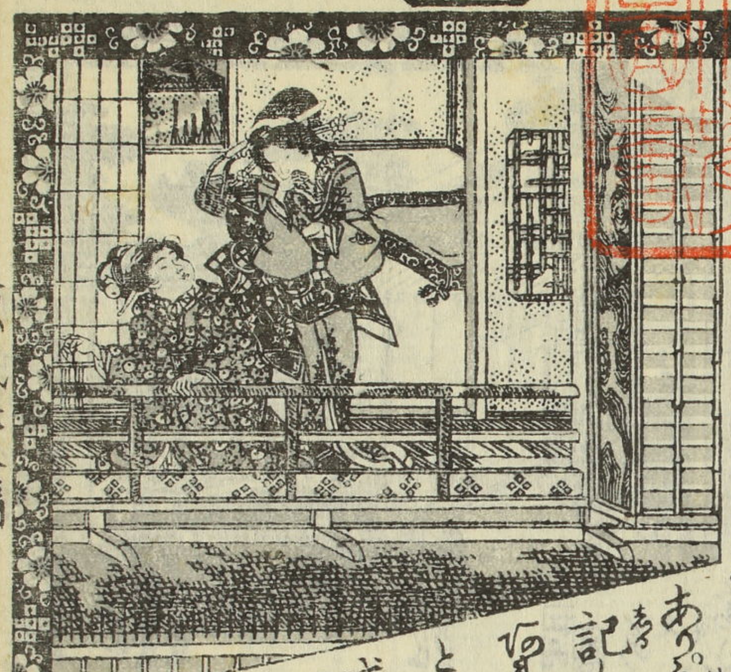
下冊

第九八編

種彦作
國貞画



鶴屋梓

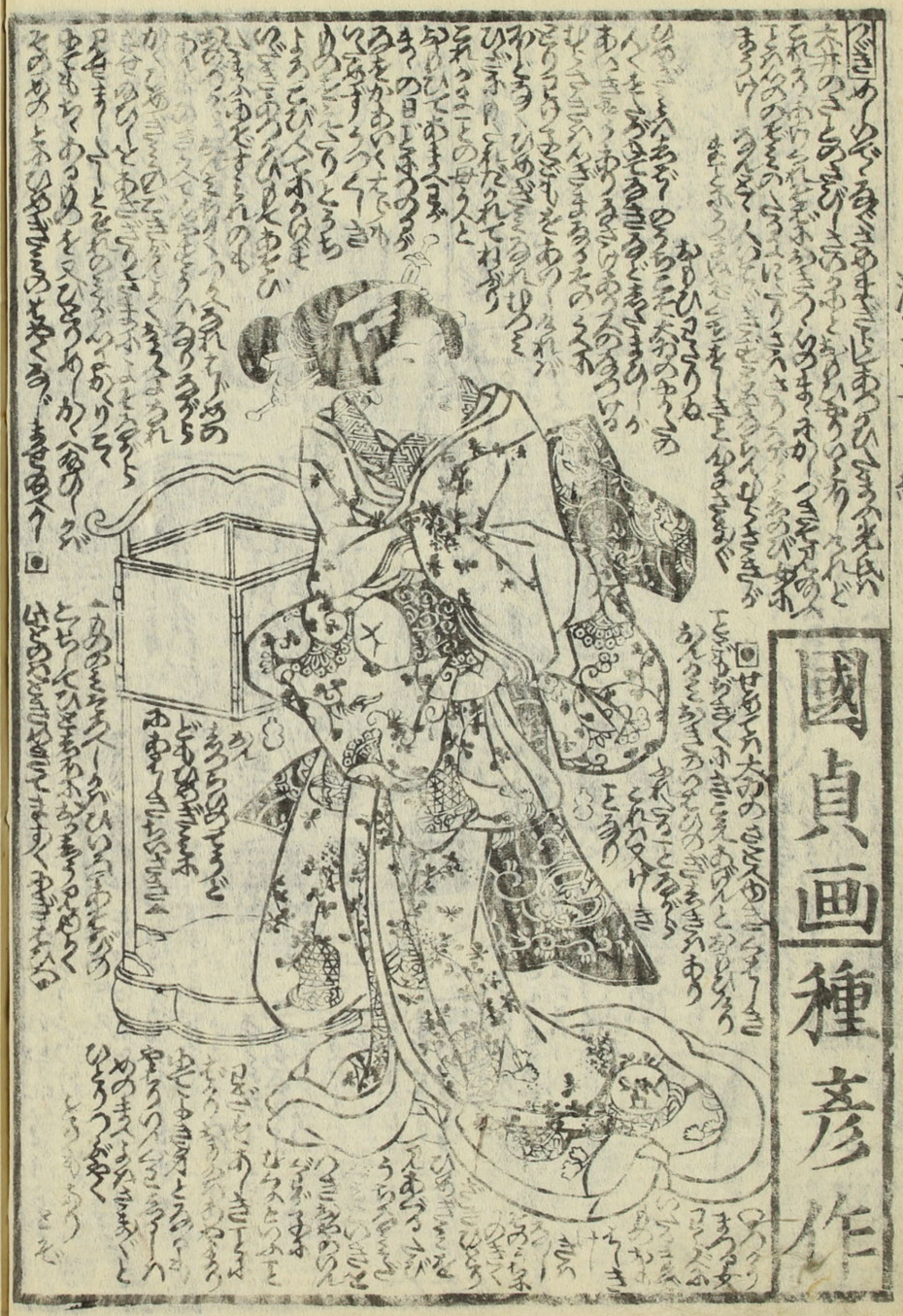


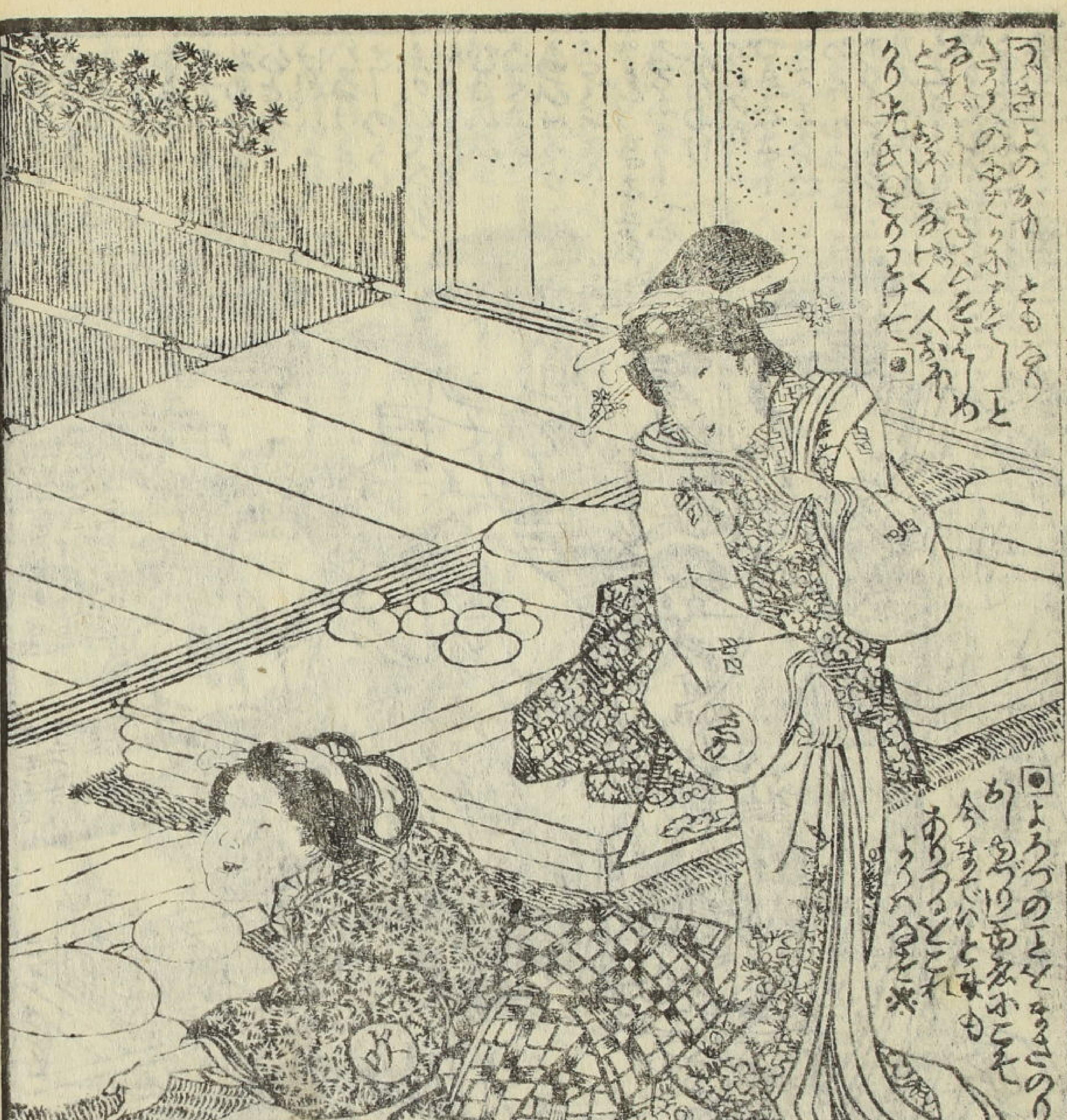
後紫舍源氏第九八編

或人曰。昔ハ文笑ちらふ時鳥。此句江州日吉の宮歌仙の額ヨ捨と
ありぬ。そ吹草古百人一句ハ光氏の室生
記。其角ゞ句兄弟ハ赤右衛門妻と
ども。人貝原の搭を知りて赤右衛門
とも光氏ども文の名ハいの者ち。紫
式部ハ三歳兒も知りて見文文乃
宣孝とゞ。書を讀ざる者ハ知ども
千人ふ持の鬼子母神ふの紅男ハ
その文ハ預とうくべきもぞるれど不
学の者ハ名ゞゆも不知。室ハ思

松風の巻の初
柳亭種彦

國貞画　種彦作



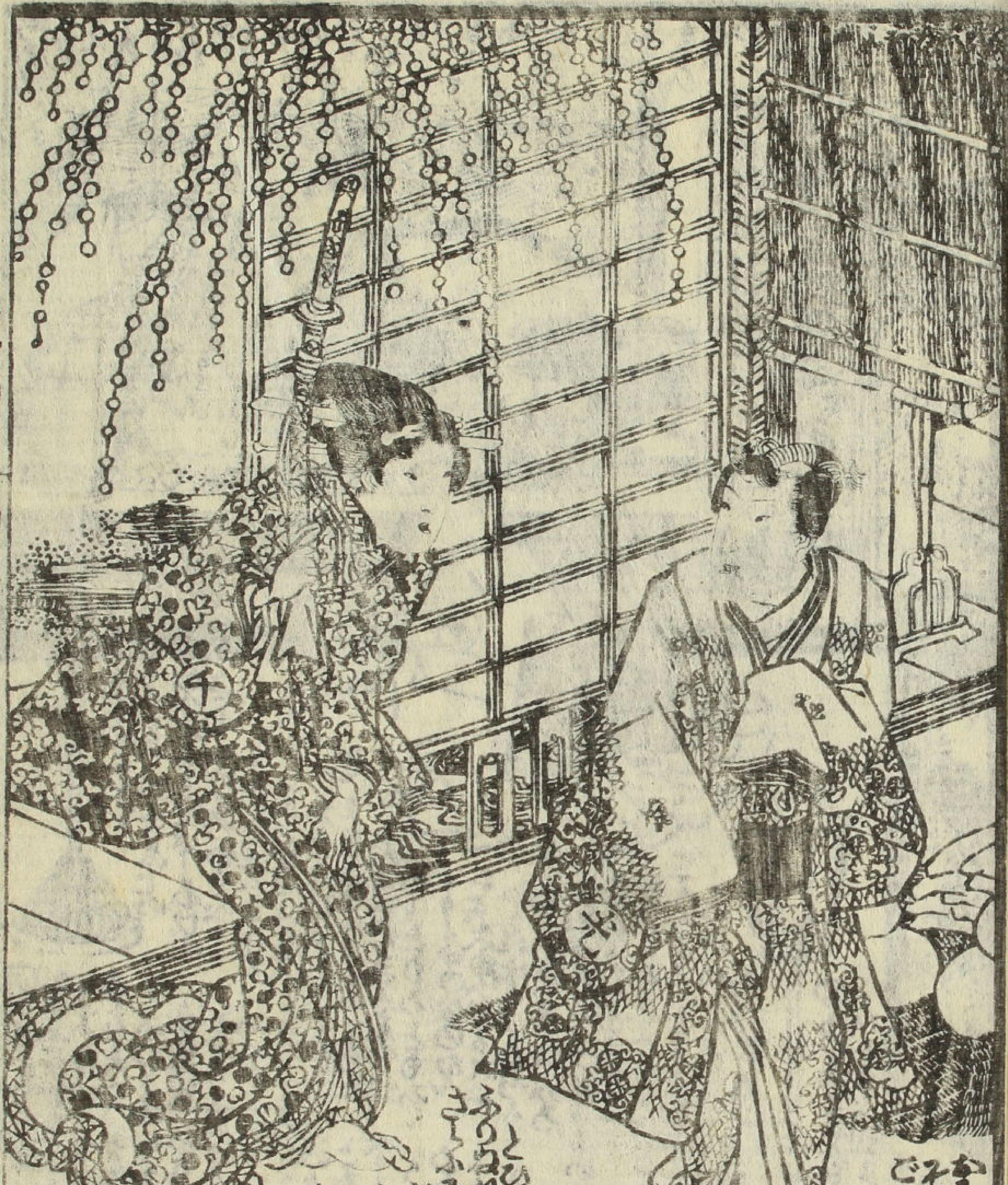


[つゞき]よのなか[illegible]
[illegible]

◉よろづのことを[illegible]
[illegible]
今まで[illegible]
ありつると[illegible]
よう[illegible]※

※[illegible]

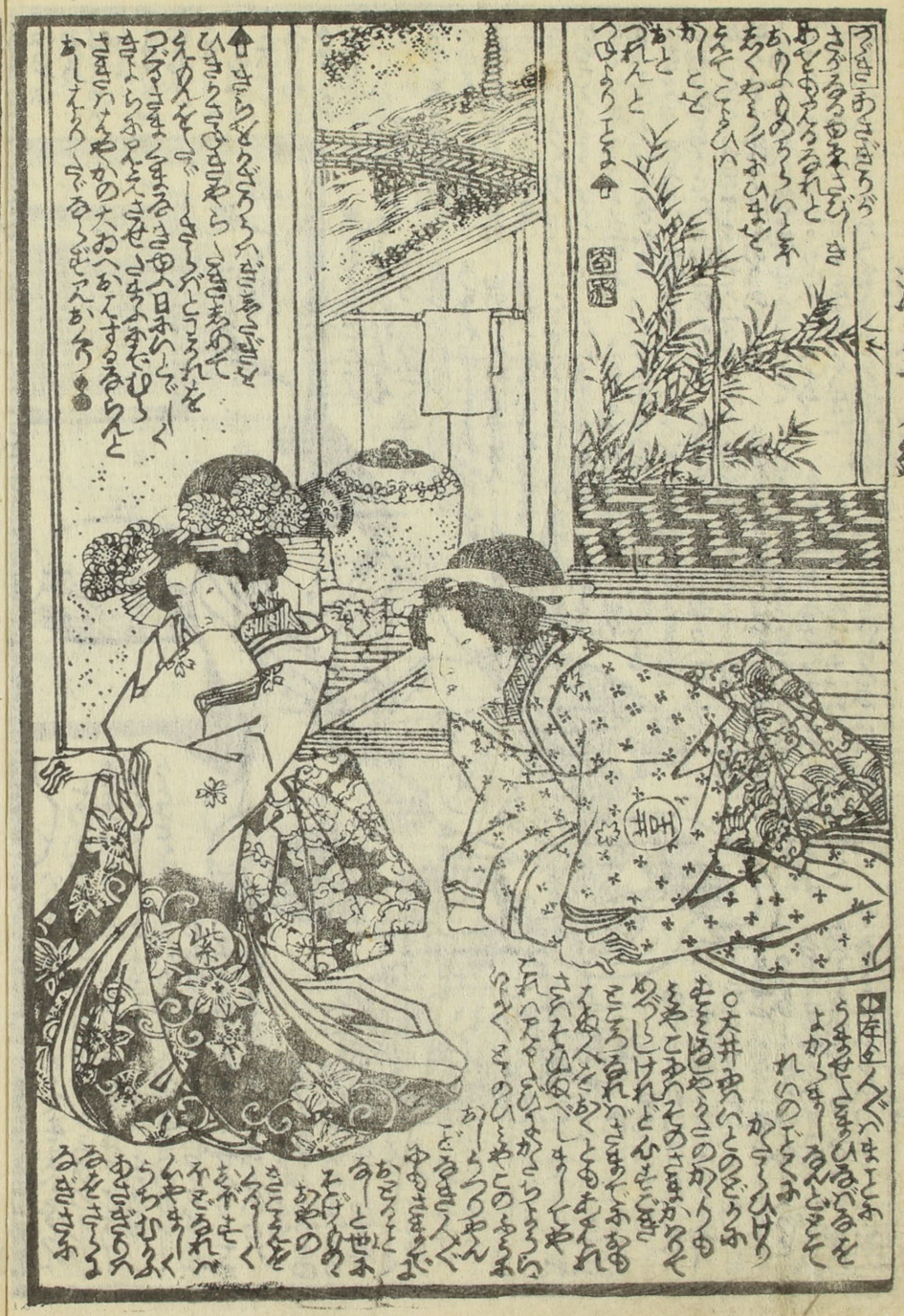
○その年[illegible]
[illegible]



[illegible]怪異のこと[illegible]
[illegible]今ぞとさとり[illegible]

[illegible]

[つゞく]



つぐさ　あさぎちりの
さぶろるゆきさびし　き
あともさるるれと
ありよのめらいとそ
もくやらくおひまと
とそてこそひへ
かと
かと
づれと
ふよりとよ

紫式部

↑さらとくざろうへがきをくざきと
ひきりくさびきやら〜きまめて
えのんをそで〜〜さらびとろれを
つぐるさまよくまるさ田人日ふへで〜く
きよらふんえさせさまるあでひろく
ささいんやかの大おへおくするるらんと
おしんろ〜でるふぶえんおろ↑

↑年ゆ　くぐいはまとふ
うまもせとまひるびるを
よかろまーるんどそそ
れいのとくみ
かくーひけり
○大井戸いとのどうふ
もそ泊やくこのかくりも
そこあへそのさまかるそ
めつしけれどふもぐき
ところれいさまでふまも
くあくとあくともあそれ
さそそひぬべしまーくや
これはるるびまかろうら
いくくこのひくやこのふそふ
ありろうやん
ごるきくぐ
ゆあさまふ
かろくと
ゆーとせふ
そけあめ
あのの
きこそを
くるーく
をれもも
そどそれば
んやまく
うちむふ
あさぎりへ
ををさくふ
るきさふ

↑ふるとくざろうへがきをくざきと
光氏きこのをろろまのきそとろへて
きりひろうあのそのろまきのでーまん
ありさまるれいぐちろまわれと
ありひまりーらあもろろんあもそ
よとろちまもびくのそ　まふらうの
ちりかいはきりをまろせ
をきこむーさまきりん
とーへしるらん
こるあちまろ
あまのまどもも
ふまろあられてれは
かとなあいそのろこ
とあげうーとろんれば
光氏いろうろあひやふ
りあろこそ
あまりどをあるべやそうちろけて
かろうとんよのいそのるこ
ひやしもこうぎふーもうくあやろが
たろりをのひるぞかそとんあげそやとく
とるふをのろのくまんのろちぐまて
まくぎひめきこへざれありきくまへる
ひとろろくて　とひらさきこいんくまろんふ
ひきてくべさそあきまりんこひまろて
ろまするしまりわるまとこれわもをし
ふりこれるつこあろこれてひめきこを
めぐきあげくふところよかれれさそ
ろとちいきくうろくーげるちくをろめ
まもれてちんするまりこたをやふ
ーてかどころあれろちんまへの右へ

光

天保十年己亥初春新彫

偐紫田舎源氏

柳亭種彦作
歌川國貞画

当年廿八編ノ三十三編ヲ開板ハ来ル巳ノ春ニ

楠一代記 五冊 烏有山人作 歌川國芳画

百人一首稚講釋 山東京山作 八冊 歌川國虎画

清盛一代記 五冊 烏有山人作 歌川國芳画

佐野渡怨敵懸橋 緑亭仙橋作 全六冊 五雲亭貞秀画

櫻風呂花半開 白雲洞主人作 全四冊 五雲亭貞秀画

藻塩艸須磨書替 松下樓麓谷作 全四冊 五雲亭貞秀画

無筆節用似字盡 曲亭馬琴作 歌川國芳画

視藥霞引札 各再板

美艶仙女香 四十八銅 南傳馬町三丁目西側 坂本氏製

黒油美玄香

書物錦繪扇地紙 問屋 江戸通油町 鶴屋喜右衛門